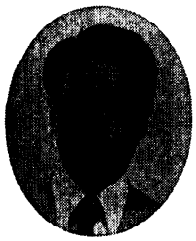

巻　頭　言

会誌を皆のものに

中　田　育　男*

情報処理産業・技術の発展とともに本学会も大きく発展し，今や会員数は1万名を越えているが，それに応じて学会誌に対する要望も多様化してきた．その主なるものは論文の国際化，解説・講座の充実，論文発表の機会の拡大と即応化であった．それらの要望を実現するために今年から欧文誌を発行しており，さらに次号の来年1月からは従来の学会誌を「情報処理学会論文誌」と「情報処理」の2つに分けて発行することになった．この機会に学会誌「情報処理」のあり方について前期以来の編集委員会で種々議論してきたことを述べておきたい．

本会誌に関して読む方の立場からしばしば聞かされる批判は，面白くない，役に立たない，ということであり，書く方の立場の人からは学会はうるさいことを云うので自由に書けない，だから書きたくない，という批判を聞く．それらの批判に答えるためにこれまでも種々の努力がなされてきたが，論文を主体とした今までの会誌では思うにまかせぬ所があったと思われる．

欧文誌，論文誌の主たる目的は研究成果発表の場を提供することであるが，残された学会誌のはたすべき役割は次のようなものであろう．

(1)会員の学識，知識の向上に資すること．

(2)本学会の活動を報告し，会員各位の学会活動への参画意識を高めて頂くこと．

(3)会員の意見発表，討論，情報交換の場を提供すること．

(4)広く情報処理に関連するニュースを提供すること

(1)の中心は解説，講座であるが，これは会員に対するサービスとして最も大切なものである．サービス性を良くするためには，専門家向きの展望記事か非専門家向きの解説か，それらを簡潔にまとめたものか，たっぷりページ数をかけて論じたものか，などテーマに応じて種々の形態がとれるようにする．また従来比較的評判の良かった特集号の頻度を多くする．それらを企画するのは編集委員会であり，現在その組織拡充をはかっているところである．しかし限られた人間の考えることには限度がある．広く会員各位からの企画や執筆者の提案，さらには寄稿原稿にした形での提案をお願いしたい．

(2)については学会の催し物についての報告はなされていたがその他の学会活動の報告は本会誌ではあまり行われていなかった．学会の運営がどのように行われているかを記事にしてもあまり面白くないと云われるかも知れないが，それらを会員に報告し，会員の意見を聞くことは必要であろう．

(3)に関しては従来から「談話室」や「論説」などの欄が用意してあったが活発に利用されているとは云えない．ACM の Communication 誌で一番面白いのは，ACM Forum という欄で会員の意見が活発に述べられている所だと云う人も居る．同様に我々の会誌を楽しいものとするためには会員各位の積極的な意見交換をお願いしたい．また「海外だより」のような肩のこらない読物の寄稿も期待したい．それらの呼び水として寄稿依頼をすることも考えたい．

(4)は研究会報告，会議参加報告などの各種報告，会議開催案内，文献紹介などを充実して会員に有用なニュースを提供することである．国際関係のニュースを速く知るために関連海外学会と直接連絡することも計画中である．

なお内容について一言云えば，情報処理システムを真に実用的なものにするには理論だけでなく泥臭いノウ・ハウの積み重ねが必要であると思うが，従来そのような記事はあまり多くなかった．メーカからは生（なま）の姿は出しにくいといった問題はあるが，実務的な問題に関する報告や討論がもっとあってもよいと思う．

新しく脱皮しようとしている学会誌の健全な発展のために会員各位の御協力を切に御願いする次第である．

（昭和53年11月16日）

* 本会常務理事　(株)日立製作所システム開発研究所